

特集

県内社協のこれから地域福祉推進のあり方を探る

去る平成20年9月6日(土)、本会と社協活動実践研究委員会は、社協のあるべき姿と実践手法を協議するため、第4回社協フォーラムを開催しました。

ここでは、200名を超える社協職員等の参加の下、全国社会福祉協議会からも参加をいただき、併せて地域福祉を推進するための社協の役割と今後の期待について、議論を交わしました。

社協活動実践研究委員会の立上げ

地域の福祉を巡る課題は、少子高齢化、地域コミュニティーの希薄化などにより、深刻化しているといわれています。具体的には、高齢者や児童への虐待の増加、あるいは悪徳商法被害の拡大など、地域住民を取り巻く環境は厳しさを増しています。また、地域における災害時の対応も緊急の課題となっています。

そもそも社協は、住民の主体的な福祉活動の組織化・支援などを通じて、地域の福祉に欠ける状態の改善活動を続けて来た歴史があります。拡大していくこの地域の福祉ニーズに的確に対応するため、現在、社協には機能強化が求められています。この方策を県内社協職員で協議するため、平成17年に「あり方検討委員会」が設置されました。ここでは、社協のあるべき姿論を展開し、そのために必要な「推進目標」を明らかにしました。これを引き継ぎ、より実践指向を強めた組織が、社協活動実践研究委員会(以下、「実践研究委員会」)として運営されています。

委員会」という)です。

実践研究委員会の目指すところ

実践研究委員会の目的は、「あり方での検討を踏まえて、あるべき姿に到達するために必要な具体的実践手法を研究していくこと」としました。その具体的なイメージは

- ①各市町村社協での取組みが可能となるヒントや手順書を示すこと

▲熱く語る実践研究委員会委員

②成功している事例を分析し、その要素を確認すること

③その事例を各市町村社協が取組めるよう一般化すること

とし、より正しい認識に基づく研究と実践を進めていきたいという思いから、助言者として学識経験者と社会福祉事業の活動実践者にも委員として協力をいただくこととしたしました。

実践研究委員会が研究を進めていく一方で、見過ごすことができない議論が厚生労働省の社会・援護局において進められました。これらの地域福祉はどうあるべきなのか、どのように基盤整備を進めていく必要があるのか、これが「これから地域福祉のあり方に関する研究会」において検討され、平成20年3月に報告されました。

ここでは、地域での福祉課題について公的な福祉サービスだけで対応する方が関する研究会において検討され、これが困難なこと、また適切でないことが認められています。そして地域で

実践研究委員会は、ほぼ毎月1回のペースで委員会を開催し議論を深めます。実践研究委員会はこの指摘に真摯に向き合い合うべきであると認識しました。

「あるべき福祉の姿から見れば、結構おり活動実践されているわけではない」ということが指摘されたところです。

実践研究委員会はこの指摘に真摯に向き合い合うべきであると認識しました。

具体的な研究方法

実践研究委員会は、ほぼ毎月1回のペースで委員会を開催し議論を深めます。



▲様々な視点から探ります

中間報告としての第4回社協 フォーラムを開催

今回の発表で明らかにしたこと

実践研究委員会の目的を果たすためには、研究の成果を各社協に発表していくことが必要であること、また広く参加者からも意見を伺い、議論を深めたいと考えたことから、平成20年9月に中間発表という形にて、「第4回社協フォーラム」を開催いたしました。結果、参加者からも賛同を得られ、各社協での実践への足掛かりとなつた実感が得られています。

また「これから地域福祉のあり方に關する研究会」の報告書と社協がどう向き合うべきかという議論では、①この報告書は、昭和37年の社会福祉協議会基本要項で示された社協の「住民主体・協働」を肯定するものであったこと

②現在の社協には、個の生活課題を地域の課題とさせる役割が期待されてること

③この活動の中で住民の参加を保障すること

④また、発見された課題の解決に向け合い、場合によつては自ら実施すること

⑤そしてこれが組織的に実施されること

といった内容が全社協からも語られました。

社協活動実践研究委員会(テーマ別) 委員名簿

あり方検討委員会報告書 カテゴリーテーマ	
1 構成員、会員(社協の構成員の考え方、会員制度の整備等) ～地域社会を作り上げる共同体の一員として～	
【テーマ1】	
2 役員体制(役員、評議員、部会・委員会等) ～地域に対して責任の取れる社協の基盤整備のために～	
【テーマ1】	
3 人材育成(人事管理整備、職員の研修等) ～社協組織の要となる人材を育てるために～	
【テーマ1】	
4 地域福祉活動計画・住民ニーズ調査、社協発展計画等 ～地域の実情に基づく事業活動の展開のために～	
【テーマ3】	
5 財源及び財務運営 ～自立に向けた社協の健全経営の体制づくりのために～	
6 リスクマネジメント、コンプライアンスルール、個人情報の保護等 ～安心・信頼できる社協であるための組織管理体制の確立～	
7 地域における支え合いへの支援 ～社協の草の根的な地域支え合い活動を～	
【テーマ2】	
8 生活福祉資金、地域福祉権利擁護事業、地域包括支援センター等 ～地域住民の個々のニーズに応え個々の生活を支える社協として～	
9 法定サービス(介護保険事業、障害者自立支援法の事業等) ～社協らしいサービス事業の展開のために～	

市町村社協役職員	
山元町	佐藤 広幸
大河原町	古山 哲也
富谷町	佐々 利春
外部委員	鈴木 正敏
実 践 者	内田 幸雄

市町村社協役職員	
名取市	沢田 充
女川町	鈴木康太郎
大郷町	大塚 潮
実 践 者	渡辺 祥子
学 識	本間 照雄

市町村社協役職員	
美里町	松田 彰洋
涌谷町	高橋 由典
丸森町	渡辺 靖子
学 識	角田 芳伸

(敬称略)